

# かえり道 さそい道

前住からの法座お誘い状 第11号

## ●秋は月、…なのにてレビ三昧

※九月はお彼岸にお月見で「おはぎ」に「だんご」、  
：甘党の私にはうれしい月です。小豆好きの  
私は「お萩」が好物。おはぎは春には「牡  
丹餅」と呼ばれます。また、夏は「夜船」冬は「北  
窓」、名の由来は「搗ぎ知らず」を「船）着  
き知らず」「月知らず」と掛詞。  
お菓子一つがなかなか風流です。

## 名月や池をめぐりて夜もすがら

※松尾芭蕉の俳句が幼稚園から聞こえてきます。  
音読を通して母国語の習得をと、一日に十分、  
日本の古典を読む時間です。

※芭蕉さんは、仲秋の名月を眺めながら池の周  
りを歩いて、いつの間にか夜が明けてしま  
います。…このごろ随分お月見をしないなあ、  
と私は反省。 ついつい夜はテレビで時間つ  
ぶし…です。



※永平寺の道元禪師（1200-1253）は、

春は花夏ほととぎす秋は月  
冬雪さえて冷しかりけり

と四季に彩られた深山の禅堂の豊かさを詠みま  
す。今も昔も、四季の彩りは変わりません。  
変わったのは私たちの暮らしぶりです。

## ●秋は月、…そしてお寺でお月見

※法然上人（1133-1212）は、名月を賞美でながら、  
お念仏の極意を明察されます。  
この法歌を音読してください、…何度も。

月かげのいたらぬ里はなけれども  
ながむる人のこころにぞすむ

（※かげは影の意。陰ではありません。陰はくらがり、  
影はひかりです、星影や面影なども同意です。）  
（※すむは澄むと住むと両意の掛詞です。）

※『観無量寿経』の「阿弥陀仏の光明は遍く十方  
の世界を照し、念仏の衆生を摂取して捨てた  
まわず」の心を読む、と上人の詞書があります。

※十方世界、全てのものを救うとの阿弥陀仏の  
誓願に手抜きはありません。だったら、全  
てのものはそのまま救われるはずです。

月の光は、あらゆる里人の所に届いていま  
す。でも、家の中でテレビを見ていては銀の  
雫と賞美される月の光を浴びることは出来ま  
せん。

全て問題は私の側にあるのです。

## 虫の夜の星空に浮く地球かな

大峯あきら

※園庭を歩き止まりのない循環式の遊び空間に  
改修しました。歩々に視座が変化する面白さ  
も特色です。子供たちは視座の変化に驚き、  
グルグル走り回って大喜びです。

※視座が変わると、私は星空に浮かぶ小さな地  
球上の刹那の命と知られます。

※今回の夜座は満月です。古い本堂の縁側でお  
月見を楽しみませんか。…いたらぬ里ぞなき  
と…。

（平成30年 秋讃仏会法要 前住職）